

地震対策成案出る

日常の生活空間の快適化が

災害に強いまちにつながる



材野委員長から提言書を受け取る岡崎市長(右)

対策にかかる項目を整備するため平成7年から6回にわたり専門委員会で審議を重ねてきたものです。

提言書は、日常の生活空間の快適化が災害に強いまちづくりにつながることや、ため池などの既存自然ストックが防災へ果たす役割の大切さを認識することも重要であるとされています。

その他、防災というと何か「事業」という感じがあるの

が指摘されています。

これまでの許認可などの行政手続については、審査や処理の基準が明確でないことが、行政指導が多用されることはわかりにくいため、指摘がありました。市では、こうした行政手続のルールとして行政運営の公正性の確保と透明性の向上を図り、市民の権利利益の保護に努めます。

向日市では、これらのことから「日常的なものを防災に使う」といった観点に立つことも必要であると、提案しています。

自治功労表彰



藤田喜一郎氏

山口彦一氏

表彰が行われ、藤田喜一郎氏は固定資産評価委員を15年、また山口氏は選舉管理委員を15年8ヶ月の間務められ、まちの発展に尽くされました。

3月18日に自治功労

藤田氏は固定資産評価

委員を15年8ヶ月の間

務められ、まちの発展

に尽くされました。

2人が表彰されました。

藤田氏は固定資産評価

委員を15年8ヶ月の間

務められ、まちの発展

に尽くされました。

3月18日に自治功労

藤田氏は固定資産評価

委員を15年8ヶ月の間

務められ、まちの発展

に尽くされました。

<p